

土壌医検定から学んだもの

栃木県立小山北桜高等学校 食料環境科3年 大森 海空

私は小山北桜高校の食料環境科に所属し食料生産コースで「野菜」を専攻しています。授業や実習ではトマトやトウモロコシ、ハクサイ、ダイコンを栽培しています。「課題研究」で「ミミズを活用した土作りプロジェクト」を立ち上げ、「土」について勉強をしていました。あらためて「土」について考え勉強して行くうちに「土」は奥が深く、知らないことが多いと思いました。そんな時、先生に土壌医検定という資格があるから挑戦してみないかと声をかけていただき、野菜専攻生で土壌医検定に挑戦することにしました。

私が特に勉強になったことは土壌の物理的性質の「土の構造」についてです。「排水性、保水性、通気性が高いもの」が良い土とされています。その保水性、排水性どちらも高いという説明が矛盾していると感じて理解できませんでした。その答えは勉強をしていくうちに、土の構造によって成立すると知りました。

土の構造は単粒構造と団粒構造があります。良い土の構造が団粒構造です。団粒構造は小さな粒が数個、一かたまりになって構成されており、大きなすき間で排水性、通気性を高め、小さなすき間で毛管現象により水を蓄え保水性を高めると勉強しました。矛盾していると感じた「保水性が高く、排水性が高い」という言葉が解決できてとても印象に残っています。

土壌医検定に挑戦して、授業や実習で行ってきたことがより深く学べ、とても勉強になりました。資格の演習問題や資料集に記載されている実験や器具を実際に使ってみて、畑の土で土壌診断してみたり、土性実験をしてみたりしました。普段同じよう見える「土」が大きく違うことが知れとても面白かったです。

おいしい野菜を栽培するには野菜について勉強するだけでなく、野菜を取りまく環境も大切です。その中で「土」が野菜に及ぼす影響は大きく、野菜作りには土作りが大切だと改めて勉強になりました。この学んだことを活かして美味しい野菜を生産し地域に届けたいです。土壌医検定に挑戦して身近にある普段は気にならないものが勉強してみると知らないことが多く奥が深いと言うことを学ぶことが出来ました。今後はこの経験をいかして色々なものに興味を持って生活して行きたいです。

